

かわらぬ想いつたえたい——胸うつ愛の物語。

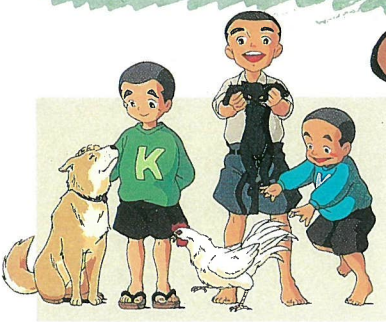
ママの一生

長編  
アニメーション  
映画

原作●椋 鳩十 (大日本図書刊) / 監督●神山征二郎



もっといっしょに  
いたがったのに...  
ごめんねマヤ!  
ありがとうマヤ!!



企 画 ● 砂 村 悖  
作 者 ● 舟 橋 一 良  
監 督 ● 神 山 征 二 郎  
脚 本 ● 加 藤 伸 代  
出 演 ● 岩 本 保 雄  
作 画 監 督 ● 北 崎 正 浩  
美 術 監 督 ● 中 村 光 毅  
音 楽 ● 針 生 正 男  
チ ャ ー ク ト ● 小 野 隆 哉  
彩 色 設 定 ● 宝 田 ゆ う 子  
撮 影 監 督 ● 藤 田 正 明  
編 集 ● 尾 形 治 敏  
制 作 担 当 ● 森 井 俊 行  
宣 伝 制 作 ● 池 上 幸 男  
声 の 出 演  
伊 藤 留 奈  
田 中 康 郎  
平 林 尚 三  
菅 岡 繁 蔵  
田 原 アルノ  
篠 田 三 郎





# マヤの一生

## ●物語

1941年(昭和16)3月。鹿児島県加治木町の久保家に一匹の小犬が届きました。猪猟をする熊野犬。真っ黒な瞳の小犬は、マヤ(釈迦の母の名前)と名付けられました。

久保家は、女学校教師のお父さん、やさしいお母さん、一郎、次郎、三郎の五大家族で、マヤはお父さんの知り合いの猟師に送ってもらったのです。

マヤと次郎はあつという間に大の仲良しになりました。しばらくして、久保家にはニワトリのピピ捨て猫のペルが加わり、五人と三匹は家族として、たいへん仲よくくらしていました。

しかしこの年12月、太平洋戦争が始まり国民すべてが戦争に巻き込まれていきました。

それから二年。日本は食べるものにも困っていました。久保家の

みんなもいつもおなかをすかせていました。それでもマヤや次郎たちは毎日たのしく暮らしていました。

そんなある日「この食料難の時代に犬を飼うのは贅沢だ」という理由で犬を殺すという命令がきました。お父さんは「マヤは家族の一員だ」といって抵抗します。級友たちからは非国民と罵られても耐える次郎。家族みんながマヤを守ろうと一生懸命でした。

しかしとうとうお父さんの留守にマヤは無理やり連れて行かれてしまいました。マヤがひとりぼっちではかわいそうと次郎と三郎は一緒について行きます。

マヤの運命は……

(カラービスタ/1時間15分)

製作協力・親子映画埼玉県連絡会  
配給協力・映画センター全国連絡会議

## ●解説

「マヤの一生」は親子映画30周年記念作品として製作されました。

原作は、「大造じいさんとガン」や「月の輪グマ」「片耳の大鹿」などの作品で知られる、児童文学者椋鳩十氏の作品の映画化です。

監督は、「ハチ公物語」「遠き落日」「月光の夏」「ひめゆりの塔」など数々の感動作を生み出している神山征二郎監督。また作画は、日本のアニメーション界の先駆的な存在の虫プロダクションが高度な技術をもってあたりました。

「マヤの一生」は、太平洋戦争下での動物たちとある家族の心あたたまる交流を描きながら、戦争という狂気がかけがえのない小さな命をも奪うという悲しい事実を伝えます。しかし同時に飼い犬マヤと少年次郎との絶ち難い愛情と絆をとおして、愛と平和、そして命の大切さをあらためて私たちに語りかけてくれる感動の物語です。

